

# 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

エペソ人への手紙一章二三節

## 2016(28)年 週 報

7月10日

「妻への勧め」

第二聖日

第 3463号

聖  
言

教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。エペソ5：24

主の弟子となる⑫  
第二課 バプテスマ——次のステップ  
「しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行つて、イエスの指示された山に登つた。『わたしは天においても、地においても、一切の権威を与えられています。それゆえ、あなたがたは行つて、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によつてバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。私は、世の終りまで、いつも、あなたがたとともにいます。』」  
（マタイ二八ノ一六〜二〇）を学びます。先に述べたように、ここは「大宣教命令」と呼ばれる有名な箇所です。この命令は、マタイ、マルコ、ルカ福音者にも書かれています。この命令の文法的な構造はとも重要ですが、具体的に命じられているのは「弟子にせよ」ということです。その他の三つ「出て行き」、「バプテスマを受け」、「教えなさい」は分詞形で、「弟子とせよ」という命令の土台となつています。ということは、弟子たちがイエス・キリストの弟子を作るのに三つのことをする必要があつたということです。第一に弟子たちはあらゆる国へ出ていき、行つた先々の国の人々に福音のメッセージを伝える必要があります。第二に、信じた者にバプテスマを授ける必要があります。第三に、新しく回心した人にイエスが弟子たちに教えられたすべての新しい契約を教える必要がありました。（CIBTE主の弟子より）

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

[minoru\\_yamamoto@hotmail.co.jp](mailto:minoru_yamamoto@hotmail.co.jp) メール [m7-inoru@ezweb.ne.jp](mailto:m7-inoru@ezweb.ne.jp)

二〇一六年七月三日午前一〇時 礼拝 山本 稔牧師

「妻が夫に従う理由」

「なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。」(エペソ五ノ二三)

一、ナイチンゲールとしての教会

教会は世のナイチンゲールです。世にきれいな音色と姿を表して、世に慰めを与えるだけでなく、世よりいち早く危険を身をもって知らせる存在です。具体的に言うなら、空気が汚くなると一番先に死により、人間に危険を知らすのです。教会の少子、高齢化は社会のやがての姿です。

二、結婚の危機

教会に若い家族が集まらない。結婚適齢期の人々が結婚をしないとすることが大きな理由です。将来の不安があるからです。三、神は結婚をお喜びにならない

教会も若い人が集まらないと閉鎖になる。一番悲しまれるのは神様です。教会、結婚を通し、夫婦の関係を通してご自身の素晴らしさを世にしらせられようとなさっています。

四、夫と妻の関係

エペソの教会は世の感化をもろに受けていた。浮気、不倫、隠し子、結婚に関する諸々の悪で満ちていた。そのなかで妻が夫に従うことを示す。従うとは奴隷根性でありません。主に従うように、感謝をして従うのです。神様ならできるが、夫にはできないことはないではない。妻の行状を見て夫は変わるのです。これ以外に夫婦が円満になる秘訣はありません。

五、かしらとしての夫

おかしらはお父さんが食べた。かしらに偉い者として絶対服従しなければならぬのか。かしらの存在はたとえば、子どもが学校で問題を起こした場合、リーダーである夫が行き、妻で

なく夫が責任を負う。これがかしらの使命です。戦いの矢面に立つのがかしらなのです。

六、自分の体の救い主である夫

二三節 詳訳(ご自分の)からだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。「救い主は夫が妻の救い主です。体は聖霊の宮です。夫の不倫は妻を滅びに至らせているのです。妻を苦しみから救出するのは夫の使命なのです。」

七、旧約における悪い妻と夫の関係

旧約には身持ちの悪い妻とそれを導く夫の関係を通して神とイスラエルの関係を表しています。「主がホセアに語り始められたとき、主はホセアに仰せられた。「行って、姦淫の女をめとり、姦淫の子を引き取れ。この国は主を見捨てて、はなはだしい淫行にふけているからだ。」(ホセア一ノ二)。夫婦関係を悩むように、神様はイスラエルを妻として不倫、偶像崇拜をお悩みになられた。

八、キリストと教会の関係

これはまさしく、イエス様と教会の関係としてエペソ人への手紙にしるされています。イエス様が命をもささげて罪人を愛し、その集まりである妻であるエクレスヤ、教会の夫となつてくださったことを思い、夫婦が一つとなり、信者同士が一つとなることは、はたの人が見えていてもきもちがいいではないですか。

それにより、教会は変わり、教会が変わることにより、社会も変わるのです。

二〇一六年六月二九日午後七時 祈禱会 山本牧師

「北と南の王の争い」(ダニエル連講第二六回)

「それで、南の王は大いに怒り、出て来て、彼、すなわち王と北の王と戦う。北の王はおびたらしい大軍を起こすが、その大軍は敵の手に渡される。」(ダニエル一ノ一一)

ダニエル書は歴史の中にいなければ書けない。ゆえにダニエル書は記事の記されているBC200年とダニエルの生きていた

そうなると、ダニエル書は偽りになる。聖書は神の言葉であり神は偽りをいわれない。ダニエル書は歴史を知らなければ書けないほど、現実を書いているとともに、ダニエル本人が書いていることを信じる。東西南北の国で南の国、プトレマイオスのエジプト、北の国セレコウスのシリアの事を重点的に記しているのはその狭間に位置している麗しの国であるイスラエルに関して神様が関心を持っておられるからである。